

題材名「日本の音楽に親しもう」 (第5学年 B鑑賞)

■本事例のポイント

1. 題材のゴールと導入の課題を同じにすることで、児童自身が自分の変容を捉えられるようにした。
2. 板書、振り返り、音源などをサイトにまとめることで、児童が必要な情報を自己選択しながら学習できるようにした。

■題材の目標

拍節の有無などの日本の音楽の特徴を理解するとともに、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを聴き取り感じ取ったりしながら、日本の音楽の特徴を捉えながら味わって聴き、日本の音楽に対して理解を深め親しむ。

■題材の指導計画 (全4時間)

第1時

「日本の音楽に興味をもち、学習の見通しをもつ」

- ・既習の日本の音楽について確認し、この時点で自分が考える日本の音楽のよさについて「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」のどちらかを基にして、スライドにまとめる。

第2時

「日本の音楽には、独自の音階が使われていることを知る」

- ・日本と海外の子守歌を比較して聴き、日本の音楽には独自の音階（律音階・都節音階）があることを知り、実際に歌って実感する。

第3時

「日本の音楽には、拍の有るものと無いものがあることを知る」

- ・「春の海」を聴き、前半部と中間部を聴き比べ、拍の有無について知り、それぞれの面白さについて知る。

第4時

「これまでの学習を振り返り、日本の音楽のよさについてスライドにまとめる」

- ・これまでの学習を振り返り、第1時と同じように、「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」のどちらかを基にして、日本の音楽のよさについてスライドにまとめる。

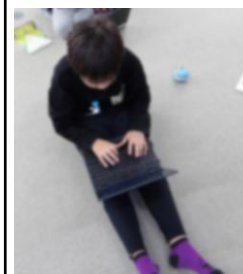
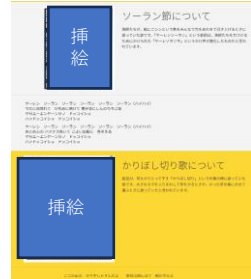
■本時の概要

めあて 今まで学んできたことを生かして、日本の音楽のよさを自分の言葉で友達に紹介しよう



① 前時までに学んだことを生かして、音階・拍の有無の視点で2曲の聴き比べに取り組む。

② これまでの学びをまとめたサイトを参考にして、第1時に考えた日本の音楽のよさについて、もう一度自分なりに考える。

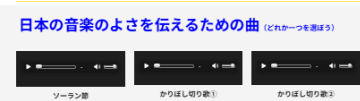
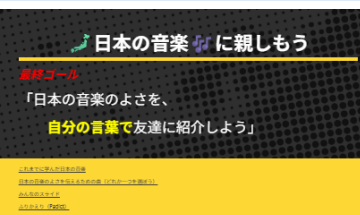


③ 第1時と同じように、「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」のどちらかを基にして、日本の音楽のよさを友達に伝えるスライドづくりに取り組む。

④ 友達のスライドを見合い、自分のスライドを見直したのち、振り返りを行う。



■ 指導と評価の工夫



めあて『日本の音楽の良さを自分の言葉で友達に紹介しよう』

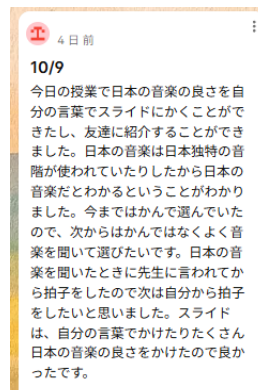
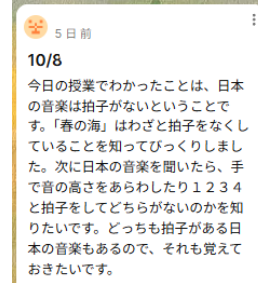
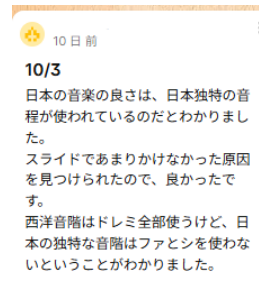
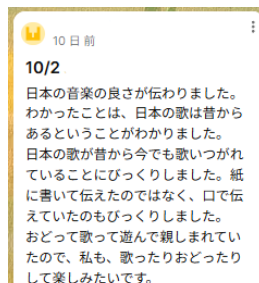
① 情報収集・他者参照を自己選択できる環境づくり(サイト)

- * 児童にとっては、必要な情報や他者を参照しやすい環境をつくり、スムーズに必要なことを収集できる。
- * 教師にとっては、情報を焦点化することで、評価に必要な内容をまとめることができる。

子供が必要な情報を収集する場面

② 既習の知識と、新たな知識を結び付けて知識を再構築

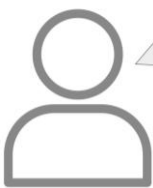
- * 児童にとって、新たに得た知識を振り返ることによって、日本の音楽の特徴が具体化され、次に使える知識へと深化することができる。



子供が自らの学習を振り返る場面の設定

■ 学習調整をしている子供の姿

①「ソーラン節」(児童A)



目の前に海が出てきそうでした。みんなでも力を合わせていることが「ドッコイショ」という掛け声でわかりました。楽器の数が少なく、歌が聞きやすかったです。



めあて『日本の音楽の良さを自分の言葉で友達に紹介しよう』

②「ソーラン節」(児童A)



元気になる歌でした。「ドッコイショ」という掛けごえで力を合わせて協力していることがわかりました。日本独特の音階と拍子がある日本の音楽ということがわかりました。ソーラン節はみんなでも力を合わせるために拍子があって、かりほし切り歌は一人でやる作業なので拍子がないことがわかりました。

はじめ(左スライド)は、音楽を聴いて感じたことしか書いていないが、最後(右スライド)には、学んだことなどの情報をサイトから取捨選択し、自分に必要な情報を活用することができた。

■ 成果(○)と課題(▲)

○第1時からの板書や毎時間の振り返り、授業の中で扱った音源やスライド、友達が作成しているスライドなどをサイトにまとめて、いつでも自由に情報を得ることができるようにしたため、児童は自分に必要な情報収集や他者参照を自分で調整しながら学習に取り組むことができた。

▲サイトから適切な情報を得ることが難しい児童がいた。学習内容から解決のために必要な情報が何なのか想定ができず、見当違いのページから探そうとしていた。サイトを利用する際は、学んでいる内容と、どのページを参考にすればよいのかを、全体で共有しておくことで、児童は自己調整して学習ができるようになると思われる。